

地方 紀民 行鉄

浜松は徳川家康の街

沿線の地図を片手に

縁の場所を巡って行けば

ビルの狭間や駅の脇から

歴史の欠片が呼び掛けてくる

遠州鉄道株式会社



大河ドラマの影響が、通常通りの光景か、予想通りの家康推し。遠州鉄道新浜松駅周辺には、いたるところに「家康」「出世の街」の文字が入ったポスターや登り旗がはためく。何はともあれ、かの人の城に行かねば。

浜松城は出世城

浜松城址へは新浜松駅から徒歩でも行けそうだけど、せっかく遠州鉄道の1日乗車券を購入したので、電車に乗って2駅目、遠州病院駅で下車。

片側2・3車線の道路の脇に商業ビルやマンションが立ち並ぶ駅周辺に、「城址」の気配は感じられない。大通りを歩くこと10分弱。ビルの後ろに縁がのぞき、石垣と天守が目飛び込んできた。

浜松城の天守は1959年に再建されたものの。そもそも家康が居城にしていたころの浜松城に天守はなく、もっとシンプルな造りだったという。再建された天守の中は、浜松時代の家康や浜松城に関する資料などの展示室になっている。

浜松城は出世城。所以は後に天下人になる家康が居城にしていたから。それなら駿府城や岡崎城は？ と思っていたのだけれど、展示を見ていて、疑問解消。家康の後、歴代城主の多くが江戸幕府の要職に就いたこともあって、そう呼ばれるようになったらしい。では現在の浜松城の「城主」に該当するのは？ 上り調子の強運にあやかっていたら面白い。

展示を見ながら天守最上部まで登ると、年配のご夫婦に手招きされる。「こっちに来てみな、富士山が見えるよ」。示された方を見ると、街並みのはるか向こうに、雪をかぶった富士山が、「こんなにきれいに見えるのは珍しいんだよ」と嬉しそうに教えてくれる。どうやら運が良かったらしい。

出世城の近くには

浜松城址の周辺には家康・徳川家に縁の地が点在していて、街中には、そうした場所を巡るための案内表示がそこにある。駅に向かいつつ、何かないかと探してみると、城址のすぐ近くに「出世神社」と呼ばれる神社を発見。

ビルの中の細い坂を上った先、住宅に囲まれて建つ元城町東照宮。境内には10代の豊臣秀吉と30代の家康の像が立っている。2人の天下人と縁があるなら、確かに「出世神社」と言われておかしくない。ところが由緒書きを見ると、神社の創建は明治時代。どんな縁が？ と思ったら、かつてこの場所にあった引間城は、少年時代の秀吉が武家奉公のきっかけをつかんだ場所であり、その後、浜松に入った家康が浜松城を建設する間、住んでいた城だったという。

2人の像の間に立つて写真を撮れる場所の横には、「出世運がうなぎのぼり」と看板が立っている。残念ながらお一人様のため、自分を入れた写真は撮れない。天下人2人の像のみ写真におさめる。

「うなぎのぼり」までは望まないけれど、



浜松城天守の中は資料等の展示室。最上部からは、天気次第で富士山が見える。

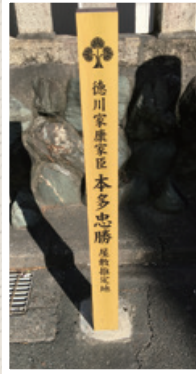


遠州鉄道

【えんしゅうてつどう】

新浜松駅から西鹿島駅まで、17.8kmを32分ですなぐ。通勤通学の重要なインフラとして親しまれている。通称「赤電」。





三河から浜松に入った年に家康が創建した遠江分器稲荷神社。敷地のすぐ横には、本田忠勝の屋敷があったらしい。

浜松東照宮内にある2公像。間に立って写真を撮ると出世運が上がる？

出世城にも登ったし、出世神社にも参拝したのだから、何か良い変化があつてほしい。

車窓からも●●●が見える

遠州病院駅に戻って乗車……はせずに、家康が浜松に入った年に創建されたといわれる遠江分器稲荷神社へ。神社の敷地と重なるように、「本田忠勝屋敷跡（推定）」の碑が立っている。「忠勝はこの辺に住んでいたのか」。ぱつと思ひ浮かんだのは、大河ドラマで忠勝を演じる俳優さんの顔。違う違う、その顔であるわけがない。ドラマの影響は大きい。

ようやく乗車……せずに、これまた駅のすぐ横にある二代将軍・徳川秀忠の産湯に使われたという伝承のある井戸をちらりと見て、車道沿いを歩く。三方ヶ原の戦いで武田軍から敗走中の家康が身を隠しつつ武運長久を祈ったという「雲立楠」がある浜松八幡宮まで歩いて、八幡駅でようやく乗車。ここから一気に終点の西鹿島駅に向かう。

遠州鉄道の新浜松駅から7駅目の上島駅間は高架になっている。天気が良ければ高架区間にある助信駅〜曳馬駅間で車窓から富士山が見えるという。本日は浜松城天守からも見えるくらいに良い天気。当然、車窓からもくつきりはつきり。富士山は何度見ても得した気分になる。

高架を走っていた電車が地上に降りると、次第に高い建物が減っていく。車窓の景色がのどかなものに変わっていく。小林駅から芝本駅間でもう一度、高架になった電車が再び地上に降りると、車内に天竜浜名湖線への乗

り換え等を案内するアナウンスが流れ、西鹿島駅に到着。

波乱万丈の浜松時代

西鹿島駅から天竜浜名湖鉄道に乗り換えれば、掛川方面や浜名湖方面にも足が延ばせる。天竜川を渡って掛川方面に1駅行けば、家康が武田軍との攻防の末に手に入れ、後に、その武田家との内通を疑われた嫡男・信康を自刃させる場にもなった二俣城址がある。行ってみたい気持ちはあるけど、乗り換えの列車はすぐには来なさそう。代わりに西鹿島駅から天竜川まで歩き、対岸の二俣城がある方角を見て引き返す。

思えば家康、人生最大の負け戦と言われる三方ヶ原の戦いも、嫡男（正室も）を死なせなければならなかったのも、浜松時代。29歳から45歳まで、ぐつと我慢し耐え忍ぶことも多かっただろうこの時代は、きつと家康の「出世」の礎。他力本願で安易に出世を願っても、礎になるものが自分になければ叶わない。ちよつと反省。

さて、家康尽くしの一日もそろそろタイムリミット。最後にもう一か所くらい縁の場所に行ってみようか。戻ってきた新浜松駅で地図を開くも、気付けば駅隣接の百貨店のデパートに吸い込まれてしまふ。掛川茶、うなぎ、浜松餃子に当地銘菓。家康は暴饮暴食をせず、粗食を旨としていたらしい。ダイエットが頭にちらつく身としては、その自戒心を見習うべきだと思ふ。思っけれども凡人は浜松グルメを堪能します。



天竜川は西鹿島駅から徒歩5分程度。二俣城址は対岸の小山の向こう。

ビルの間を走る遠州鉄道。市街地は高架になっている。

浜松八幡宮内の雲立楠。家康が武運長久を願うと、楠から瑞雲が立ち昇ったとか。